



今回足を運んだのは、佐賀空港から車で1時間ほどの山間にある「シゲランド」。ここは、佐賀支部の古賀繁輝が自ら作り上げたキャンプ場だ。

約200坪の広さを持つこのキャンプ場には、食事をするための小屋や、漫画でしか見たことがないような巨大な五右衛門風呂、さらにはサウナやトレーラーハウス、ブランコや滑り台などがあり、その多様さに驚かされる。

「ここにあるものはほとんどが貰い物なんです。五右衛門風呂やサウナもですね。小屋も廃材を組み合わせて、地元の大工さんにアドバイスをもらいながら作りました。シゲランドのコンセプトはお金をかけないことですから！」と笑いながら語る。

「一番大変だったのは、川から拾ってきた石を一つ一つ積み上げて石垣を作ったことですね。重労働でしたが、それもトレーニングの一環として楽しめました。佐賀支部のみんなや、地域の人たちが手伝ってくれて、みんなでお昼ご飯と一緒に食べて、コミュニケーションの場にもなりましたね」と、地元とのつながりを大切にしている様子が伺えた。

案内してくれたトレーラーハウスには、後輩の峰竜太のサインが壁に書かれていた。他にもキャンプ好きなレーサー仲間もよく訪れるらしく、同支部の久富政弘も

地域住民と作り上げた！
「絆」が詰まったキャンプ場

「作ったきっかけは、九州豪雨災害です」

この常連だという。また、養成所での定期訓練の際には、古賀の同期たちが毎年シゲランドに集まり、そこから柳川に向かうのが恒例行事になっているとか。年に一度、20人ほどの同期が集まって賑やかな時間を過ごしているそうだ。「同期の中で唯一来たことがないのは岡崎恭裕選手くらいですね（笑）。お待ちしております！」と笑いながら話してくれた。

もう一度みんなが笑いたく
ら集まれる場所を作りたい

キャンプ場を作るきっかけは何だったのだろうか？「もともとここは、実家の花屋のビニールハウスがあった段々畑でした。それが2019年の九州豪雨災害で土砂が川から流れ込んで、全壊してしまっただけです」と、当時の被害写真を見せながら話してくれた。近くにあった実家も1階部分まで土



2019年九州豪雨時 近くを流れる川が氾濫した



トレーラーハウス。宿泊施設として利用



冷暖房完備の贅沢仕様



子供用のブランコとすべり台



最も苦労したと語る石垣

石流に飲まれてしまい、家族と共に悲しみの中、何とか家財を運び出したという。「その後、地域の人々の助けを借りて土地の復興を進めました。なぜここにキャンプ場を作ろうと思ったのかというと、意気消沈している僕を労って、横澤剛治さんが『ゴリラランド』に招待してくれたんです。心から楽しめて、リラックスできたことが大きかったですね。そこから、子供たちも楽しめて、自分もトレーニングできる場所、そして豪雨災害で散り散りになった地域の人たちが再び集まれる場所として、このキャンプ場を

作ろうと思いました」。この場所は単なる自作のキャンプ場にとどまらず、豪雨災害から立ち上がった古賀と地域住民との絆を深める場所として機能している。今後の計画について尋ねると、「仕事で離れることも多いので、維持するだけでも大変ですが、そば打ち体験など、地域の人たちが集まれるイベントを企画してみたいですね。あとは緊張しますが、上瀧和則さんを招待することですね（笑）」と話してくれた。

2年越しのハチミツ収穫！

「今日、2年越しの夢が叶うのですが、一緒に来ますか？」と連れて行ってくれたのは家族が経営している花屋の倉庫。その片隅には木箱が3段ほど積み上げられミツバチが元気よく飛び回っている。

「朝ご飯のパンに塗るハチミツが欲しかったんですよ」というのが養蜂を始めたきっかけ。キャンプ場に巣箱を設置したのが2年前だというが：「実は収穫間近だった養蜂箱がスズメバチの襲撃にあって全滅してしまっただけです」。その悲しみを乗り越え、今年の春に再度巣箱を設置し、収穫を迎えるということだった。

大量のハチに抵抗されながらも、近所のオジさん「かつちゃん」と協力しながら無事ハチミツをゲットすることに成功した。

HOT NEWS



五右衛門風呂

ミゲレバド

レースの疲れが
吹き飛びます！



誰もがびっくりするという、五右衛門風呂。いったいどのように入手したのだろうか？「実はこれ、鳥栖のラーメン屋の店前に宣伝用に置かれていたものなんです。一目惚れして、妻にも協力してもらって何度も通って口説き落としました」。OKが出てすぐトラックを借りて運び、500キロの釜をクレーンで吊り上げ、地域の人々と一緒に設置したそうだ。

この特注の五右衛門風呂は、なんと3〜4人が入れる大きさ！しかし、お湯を沸かすのに3〜4時間もかかり、薪の量も相当必要。ひとつ風呂浴びるのにとてつもない労力がかかる。「薪は材木屋さんが廃材をくれるので無料ですね。手間暇かけて楽しむのが醍醐味です」と、その苦勞をも楽しんでいる様子だった。

「これどこに売ってたんですか？」って聞いてきます(笑)

SKICE
Secret Base
LAND

HOT NEWS

実際に入ってみた！



取材中、汗だくだった記者に「是非入ってください！」と優しいお言葉。感謝しつつ、さっそく服を脱いでダイブすると、熱めのお湯が体に染み渡った。外気を感じながらの入浴はとても心地よいものだった。

外から見た時、「立って入る風呂かな？」と思っていたが、実はトランポリンを改造した底があり、しっかり腰をかけられる構造になっていた。これなら長風呂も安心。薪がパチパチと燃える音を聞きながら、佐賀の美しい夜景を眺める…まさに極上のひとときであった。

凄まじい暑さです…



熱した石に水をかけ、蒸気を出す。ロウリユッにも対応しており、サウナ内は凄まじい蒸気と温度に。これには上瀧絢也も「レース場のサウナの何倍も暑いです。これは減量が捗りそうですね」とフラフラになりながら答えてくれた。

シゲランド サウナ



シゲランド自慢のサウナと水風呂

またまたこだわりたい！
超高温サウナ

サウナ好きの夢とも言えるプライベートサウナ。シゲランド自慢のサウナはなんと移動式トイレを改造したもの。「以前たまたま見かけて、何か有効活用できないかなと思って、大工さんと相談しながら少しずつ作り上げていきました。今年の7月によりやく完成しました」と振り返る。

内部は2人で満員のコンパクトなサイズで、薪ストーブを使って温められる。以前はテントサウナを使っていたが、温度調整が難しく、さらに安全面での心配もあったため、この自作サウナを作ることにした。「これからタイルを全体に貼って、もっとカッコよくし

ていきたい」と今後の計画も語ってくれた。
また、サウナ横にはドラム缶で作られた水風呂も設置され、外気浴用のベンチも完備。「サウナが終わった後に冷たい水に浸かるのが最高なんです。まだまだこれから改良していきますが、この場所でのんびりとリフレッシュできる場所にしたいですね」と、整った準備も万端だ。

職業柄、実はサウナがあまり好きではなかったという。「レース後の減量で、嫌々サウナに入っていたので楽しめなかったんです。でも、自分で作ったサウナなら楽しめるかもしれないと思って挑戦してみました」と自分で手がけたサウナで、仲間と共に過ごす時間を楽しみにしているようだった。